

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

タンポポの花のつくりは、どうなっているの



小さな花びらの一つ一つが、めしべやおしべをもつ1個の
花で、じつは200個ぐらゐの花が集まったものなんだよ。

タンポポは、小さな花が集まって1個の花になっている

さいているタンポポを見つけたら、外側の花びら1まいをひきぬいてみましょう。よく見ると、図のように、花びらにくっついて、めしべとおしべがついています。根もとのほうには、子ぼう(たねができるところ)もあります。花びら1まいが、一つの花のつくりをもっています。じつは、1個の花に見えたタンポポが、およそ200個ぐらゐの小さな花が集まったものだったのです。

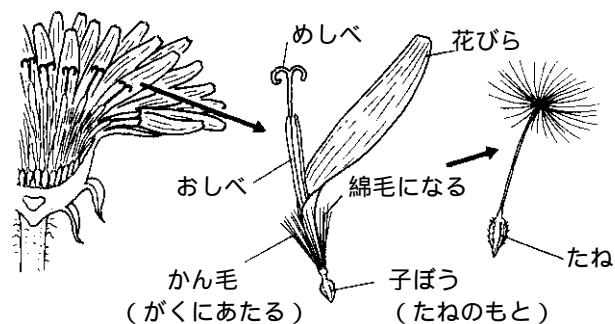
タンポポは、小さな花の集まりの、いちばん外側の花から順に成長していきます。だから、中心にいくほど花が小さく、おしべやめしべの区別もつきにくいことが多いものです。

タンポポは、暗い夜や雨の日は、花をとじている

タンポポは、明るくなると花びらを開き、暗くなると花をとじます。暗い雨の日は、昼間も花をとじたままです。

朝、つぼみに日光が当たると外側から順に花が開いて、花の中心の半分ぐらゐを残して小花がさき、夕方花をとじます。

次の日、外側から花が開いていって中心まで全部の花がさき、夕方花をとじます。3日めには、もう花はさきません。



タンポポの花のつくり